

スギ花粉症発症におよぼす重複感作の意義について

○寺西秀豊（富山医療生活協同組合富山協立病院）、
斎藤真己（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）

はじめに：花粉症の発症には季節性がある。スギ花粉症はスギ花粉飛散時期である2月—4月に主に発症するが、その時期に飛散する花粉はスギだけではない。イネ科、ハンノキ属、ヒノキ科などの飛散もみられる。今回、スギ花粉症と診断された患者において、スギ花粉以外の影響が見られるかどうか、重複感作患者の初診日に着目して検討した。対象と方法：富山大学では1983年以来、ダースラム法による空中花粉観測が行われている。2012年に富山県内の耳鼻咽喉科を受診し、同意の得られた花粉症患者80人を対象にCAP-RAST法で血清IgE抗体を測定し、重複感作の頻度について検討し、初診日等との関連性を検討した。実験計画は富山大学倫理審査委員会にて承認を受けた。

結果と考察：血清IgE抗体陽性（クラス1以上）を示した者はカモガヤ46人（57.5%）、ハンノキ16人（20.0%）、ヒノキ41人（51.3%）であった。スギ花粉症患者全体とヒノキ重複陽性を示した者の初診日を比較したものが図1である。患者は共に飛散開始日3月6日以降増加し、3月12日にピークを描いているが、スギ花粉症患者全体ではそれ以前に数個の小さいピークが認められた。カモガヤ重複陽性者やハンノキ重複陽性者においては3月6日以前に発症するものが相対的に多く認められた。

今回、スギ花粉症にも、他の花粉に重複感作された者が多数存在し重複陽性患者ではスギ花粉飛散開始日以前にも発症し、初診日に影響することが示唆された。重複感作は今後スギ特異的免疫療法を行う場合等にも留意すべき課題と考えられる。

謝辞：ご協力頂いた富山県医師会花粉症対策委員会、関係医療機関の先生方に感謝します。

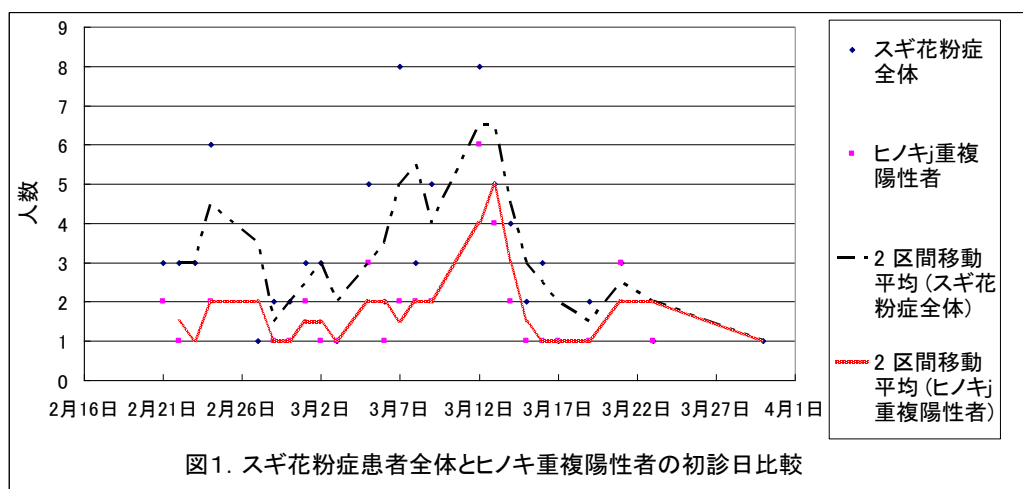


図1. スギ花粉症患者全体とヒノキ重複陽性者の初診日比較